

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2025年5月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 8
4 対日動向	・ ・ ・ 10
5 南シナ海での活動	・ ・ ・ 14
6 軍事交流	・ ・ ・ 16
参考文献	・ ・ ・ 19

中国軍事動向月報：2025 年 5 月

2025. 6. 6

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全 般

5 月 1～5 日の労働節休暇後、各部隊の訓練が活発化している。陸軍ヘリによる海上低空飛行訓練や海軍のデータリンクによる視程外射撃訓練などが確認された。また、着上陸訓練場にて水陸両用車の海上運航を行っている報道が増加し、現時点では単車の操縦及び小隊単位 of 海上機動を主に訓練している段階と見られる。

台湾に対しては、台湾当局が黄海・東シナ海・台湾海峡・南シナ海に海軍・海警あわせて 50～70 隻の展開が確認されたと述べるほか、台湾本島東南部で空母遼寧やユーシェン級揚陸艦を含む揚陸艦艇群が活動した。更に台湾の実効支配する東沙島での海警船の活動が確認されており、東沙においても中国海警の「法執行パトロール」常態化開始を企図する等、海上における圧力を強化した。

日本に対しては、3 日に日本民間機の尖閣上空飛行に対し、ヘリ搭載船含む 4 隻が領海侵入し、ヘリを発着させ領空侵犯を行った。月末には、空母遼寧が尖閣諸島に近い位置で離発着訓練を実施した。この目的としては、①尖閣領空侵犯に対し、日本が新たな対応を採らないよう牽制、②北部戦区空母編隊が台湾侵攻時の現実的な任務を東部戦区 of 対尖閣警戒監視艦艇と共に訓練、の 2 つが考えられる。

南シナ海においては、日米等との連携を強化するフィリピン（以下、比）への圧力を継続した。

軍事交流においては、4 月に開設された中カンボジアリアム港共同保障訓練センターを活用し、カンボジアとの共同訓練を実施した。訓練のために寄港した中国艦艇は、センターの所在する北側地区にある新たに建設された棧橋に接岸した。4 月にリアム基地に寄港した海上自衛隊及びベトナム海軍の艦艇は南側地区に接岸しており、北側地区は中国が排他的に使用している可能性があり、同センターが実質的に中国の海外基地として機能していると言えよう。

2 各軍等

(1) 全 般

○ 軍学校の新設¹

5月15日、国防部報道官は中央軍事委員会が近日3ヵ軍学校の設立を決定したと発表した。学校の概要は以下の通り。

- ◇ 中国人民解放軍陸軍兵種大学：陸軍機甲兵学院と陸軍砲兵防空兵学院を母体、安徽省合肥市
- ◇ 中国人民解放軍情報支援部隊工程大学：国防科学技術大学情報通信学院と陸軍工程大学通信下士官学校を母体、湖北省武漢市
- ◇ 中国人民解放軍聯勤保障部隊工程大学：陸軍勤務学院、陸軍軍事交通学院の本部と自動車下士官学校を母体、重慶市
- ◇ すべて高卒生を採用する高等教育機関。入学者数等については今後公表。

○ 全軍訓練場建設参観交流活動²

5月27～28日、全軍訓練場建設参観交流活動が北京で実施され、中央軍委関連機関・戦区・軍兵種・武警の幹部等が出席したほか、全軍の旅団級以上の作戦部隊や軍学校等がリモート参加した。張又俠中央軍委副主席が視察し、訓練環境整備、訓練資源、実戦環境設定等の状況を視察した。

視察する張又俠中央軍委副主席と無人器材やシュミレーション機材を使った訓練展示



(出典：「軍事報道」20250528)

○ 「軍事科学研究奨励条例」施行³

5月29日、習近平中央軍委主席がこの度署名・発布した「軍事科学研究奨励条例」が7月1日から施行されると公表。

条例は、軍事科学研究奨励システム構築責任の明確化・管理モデル・評価・問題点の処理・保全等について規定したもので、高水準の科学技術により軍事力強化を図るものである。

【コメント】

全軍訓練場建設参観交流活動は2023年6月の全軍基礎訓練現地会議、2024年10月の全軍合成訓練現地会議に引き続く会議に位置付けられるもの。基礎訓練から合成（多軍兵種協同）訓練へのステップアップを経て、今年度は訓練要領の効率化等について、全軍に徹底を図ったと見られる。

また、軍学校の改編や軍事科学研究を奨励する条例を制定する等、科学技術を取り入れた能力向上を図れるよう、研究開発支援や教育の面も整備している。

(2) 陸軍

○ 東部戦区陸上航空旅団の海上低空飛行訓練

東部戦区陸航旅団の海上飛行訓練

- 5月19日CCTV「軍事報道」で台湾・東シナ海担当の東部戦区陸航旅団の訓練状況が報道
- レーダーに補足されないよう低空侵入、民間船を利用した海上での迅速な再補給・再出動、対陸・海・ミサイル迎撃射撃の状況を確認
- ⇒ 隊員は「作戦支援から攻撃任務に主軸を転換せねばならない」と発言しており、着上陸作戦時の陸軍ヘリ部隊の打撃能力強化が進展

(資料源：CCTV軍事報道20250519、なお訓練時期は不明、これまでの訓練の状況を取り纏めた可能性有)

陸航旅団の海上低空侵入訓練 (画面では12機)



武装ヘリは4機 1コ単位で訓練



民間の海上プラットフォームに着艦



弾薬再補給



(出典：CCTV軍事報道20250519)

射撃の状況

発射



地上目標への射撃



海上目標への射撃



海上目標への射撃 (機雷除去)



ミサイル迎撃①



ミサイル迎撃②



(出典：CCTV軍事報道20250519)

(3) 海軍

○ 北部戦区海軍のデータリンクを使用した視程外射撃訓練

北部戦区海軍の協同訓練

- 5月25日CCTV「正午国防軍事」で北部戦区海軍駆逐艦支隊（レンハイ級駆逐艦1隻、ジャンカイ級フリゲート艦2隻が主力）の多兵種協同訓練が報道
- レンハイ級駆逐艦が、早期警戒機からの目標情報に基づき射撃する訓練を実施
- レンハイ級はデータリンクにより戦場の状況を早期警戒機と同時に把握、海上・空中の視程外目標への対応が可能と報道

（資料源：CCTV正午国防軍事20250525、なお訓練時期は不明）

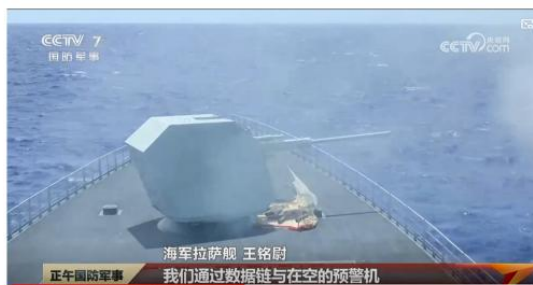
訓練に参加したレンハイ級駆逐艦



早期警戒機からの目標情報を伝達



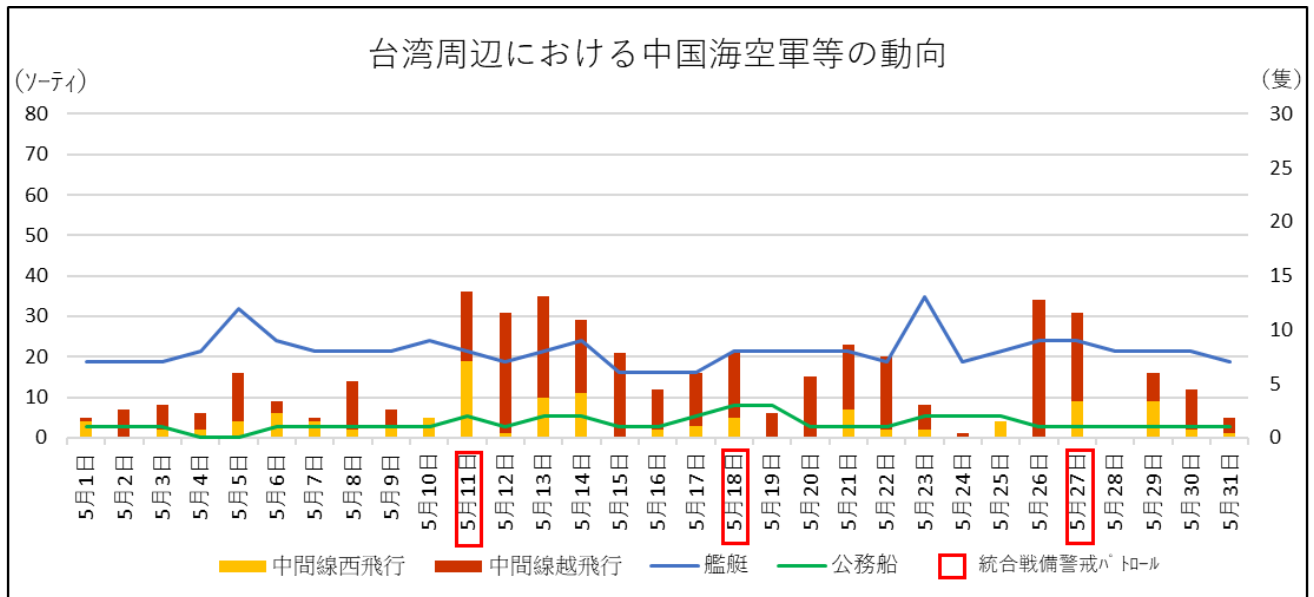
左右共：目標情報により迅速に打撃（右画像は今次訓練のものかは不明）



3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向



(資料源：中華民国国防部 HP を基に作成)

5月是中国軍機延べソーター458 (内、中間線超えが延べ399)、中国艦艇延べ249隻、公務船延べ40隻が確認。

1日における軍用機最大確認数は36ソーター、最大中間線超え34ソーター、海空統合戦備警戒パトロールは3回であった。

【コメント】

軍用機の活動は演習が実施された4月に比し減少し、無人機による台湾周回飛行も実施されなかったが、艦艇の延べ隻数は本年1月以来最大であった。

台湾国防関係者によると、5月は中国艦艇が第1列島線上に多数展開し最大限の圧力をかけると共に、多数の三無船(船名・船舶証明書・船籍港登記の三つがない船)が台湾側に越境して漁をするなどグレーゾーンでのハラスメントを実施した。この間、中国艦艇は黄海・東シナ海・台湾海峡・南シナ海の第1列島線上に海軍・海警合わせて50~70隻を展開させた。また、空母遼寧は沖宮間を抜けて台湾南東沖で、空母山東は南シナ海で活動した⁴。

(2) 金門周辺海域での動向

台湾海巡署によると5月の台湾制限水域への入域は15日、27日、28日の3回で、いずれも中国海警4隻が台湾制限水域に入域、一回当たり約2時間航行し出域した⁵。

一方中国海警局は、5月28日、海警東海分局報道官が「28日、福建海警が金門付近海域において法に基づき常態化法執行パトロールを実施した」と発表⁶。

(3) 東沙海域での動向

○ 中国漁船による操業⁷

5月5日、海巡署は「1月から5月5日までの間に海巡署が東沙海域で越境したため取り締まった中国漁船は30隻、延べ111回、拘留した小舟は7隻。5月1日から中国の禁漁期間が開始されたが、操業を継続しており、台湾側は取り締まりを強化している。」と発表。

5/5, 台湾巡視船による中国漁船への放水銃による取締り



(出典：海洋委員会海巡署20250505)

○ 海警船の進入⁸

5月28日、海巡署は「28日、東沙島の北北東27カリの海域で、AIS未作動の海警3120が東沙制限水域に進入するのを確認。海巡署は直ちに東沙担当の巡視船・巡護8号を派遣し、監視を行い、放送無線により離脱させた。これは中国が海警船を東沙海域に配備する試験の可能性も排除できない。」と発表。

【コメント】

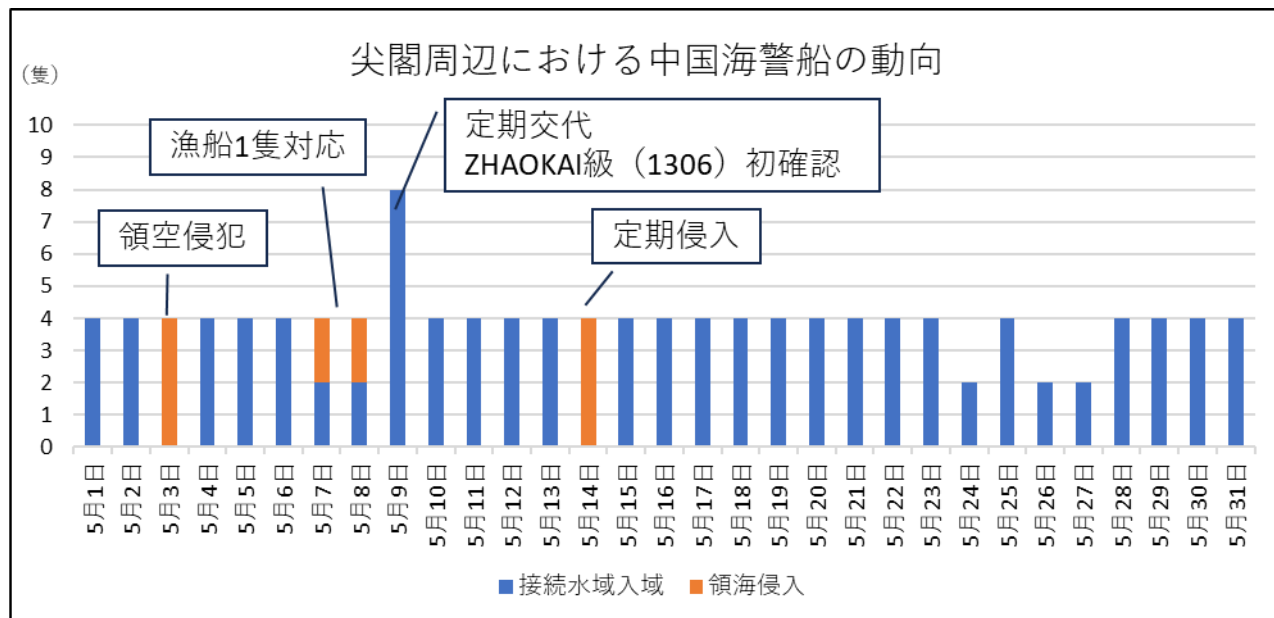
金門周辺海域での中国海警による台湾制限海域への入域（中国は法執行パトロールと主張）は月に3～4回、4隻で2時間航行、というパターンで常態化されているが、5月は28日の金門制限海域への入域に合わせ、東沙で海警1隻が東沙制限海域へ入域した。

台湾側も主張している通り、中国は東沙においても中国漁船による活動及び海警の「法執行パトロール」の常態化を企図した運用を開始した可能性がある。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

5月も砲搭載船4隻による活動を実施した。

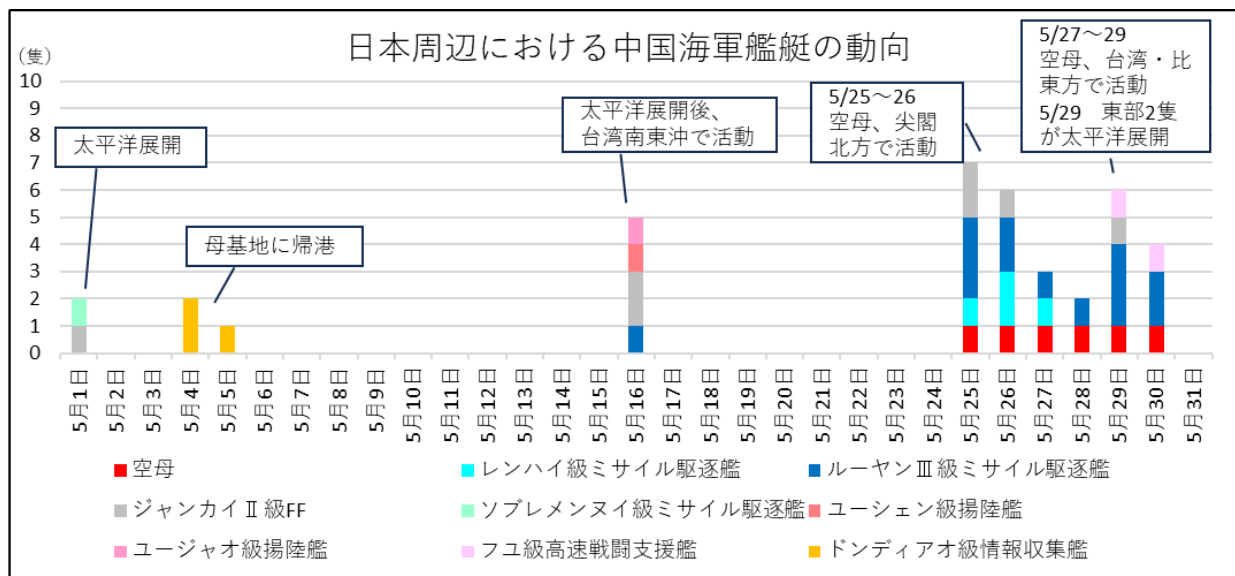
3日、日本民間機の尖閣上空飛行に対し、ヘリ搭載船含む4隻が領海侵入し、ヘリを発艦させ領空侵犯を行った。防衛省発表によると、「5月3日12時21分頃から36分頃にかけて、尖閣諸島周辺の我が国領海に侵入した中国海警船(2303)から発艦したヘリが飛行していることを、海保巡視船が確認。空自南西航空方面隊戦闘機を緊急発進・対応」した。(細部は国家基本問題研究所 HP「中国海警による尖閣上空領空侵犯と日本の対応」20250530 参照)

定期交代は9日で、海軍フリゲート艦仕様巡視船の最新型3000t級で船尾にスリップウェイを装備しているZHAOKAI級巡視船が初めて確認された。

7～8日、日本漁船1隻の操業に対し、海警船2隻で定例の対応を行った。中国海警局報道官は8日、「7～8日、日本漁船“獅子”が我が釣魚島(注：原文ママ)領海に侵入し、中国海警が法にのっとり必要な管制措置を採り警告駆逐した」と発表⁹。

(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国海軍の動向



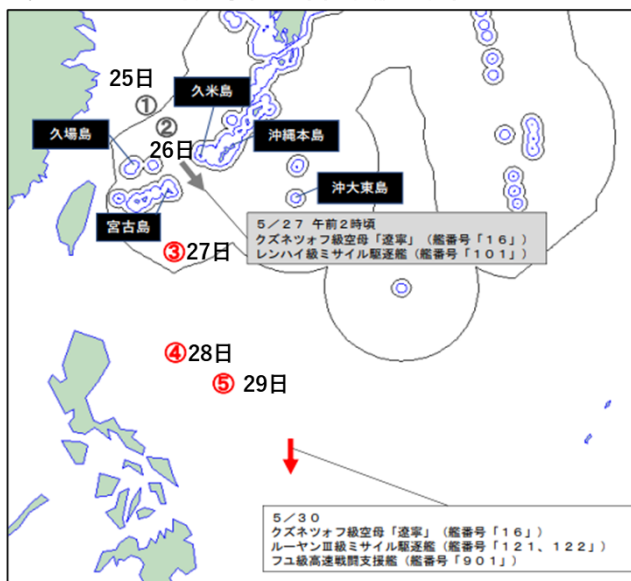
(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 38 隻の活動が確認され、統合演習が実施された 4 月の 34 隻を越えて活動が活発であった。

防衛省の発表によれば、空母遼寧含む複数の艦艇が 25 日、尖閣諸島久場島の北約 200 km の海域において航行した。26 日は久米島の北西 190 km の位置で活動し、25～26 日の間、空母遼寧の艦載戦闘機によるもの約 90 回及び艦載ヘリによるもの約 30 回、計約 120 回の発着艦が確認された。遼寧はその後沖宮間を通過して太平洋に抜け、台湾・比東方で活動、27～29 日の間、艦載戦闘機によるもの約 80 回及び艦載ヘリによるもの約 60 回、計約 140 回の発着艦が確認された。

これに関し、中国国防部報道官は「遼寧編隊の訓練は、いかなる特定の国や目標に対するものではなく、国際法と国際慣習に一致している。日本はあらゆることに対し、いささか過度に反応しすぎるようだ」と述べた¹⁰。

5/25～30の空母遼寧含む中国艦艇の位置



5/25～26、尖閣周辺で確認された中国艦艇 (黒字：北部戦区、赤字：東部戦区)

日時	位置	確認された艦艇
5月25日 午前7時頃	久場島の北 約200 km	クズネツォフ級空母「遼寧」(16) ルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦(121、122) ジャンカイⅡ級フリゲート(599)
5月25日 午後8時頃	久場島の北 約240 km	クズネツォフ級空母「遼寧」(16) ジャンカイⅡ級フリゲート(599) ルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦(155) レンハイ級ミサイル駆逐艦(101)
5月26日 午後8時頃	久米島の北西 約190 km	クズネツォフ級空母「遼寧」(16) ジャンカイⅡ級フリゲート(599) ルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦(131) レンハイ級ミサイル駆逐艦(101)

(出典：左図は統合幕僚監部報道発表資料に日付追記、右表は同資料を取り纏め)

【コメント】

空母遼寧の東シナ海での訓練はこれまでも確認されているが、今回は尖閣諸島に近い位置で実施されたため、防衛省は初の公表に踏み切ったと報道された。遼寧がこの位置で訓練を行った目的は

- ① 3日に実施した尖閣領空侵犯に対し、日本が新たな対応を採らないよう牽制
- ② 北部戦区遼寧編隊が台湾侵攻時の現実的な任務を東部戦区の対尖閣警戒監視艦艇と共に訓練の2つが考えられる。

①は、中国は日本民間機の飛行を利用してエスカレーションラダーを上げたものの、台湾侵攻を優先任務とするため、現時点では日本と武力衝突する意図はなく、日本が尖閣周辺で中国に対し、新たな対応を採らないようけん制した可能性がある。

②は、カタパルトを保有しない空母の現実的な運用を始めたということだ。固定翼機の離発着が不可能な遼寧や山東は、独自で有効な早期警戒能力を保持しないため、陸上レーダー覆域外の第1列島線～第2列島線間の作戦は困難である。これまで両空母は太平洋上で訓練をしてきたのは、台湾東沖に展開しての訓練以外はデモンストレーション目的が主であったと思われる。

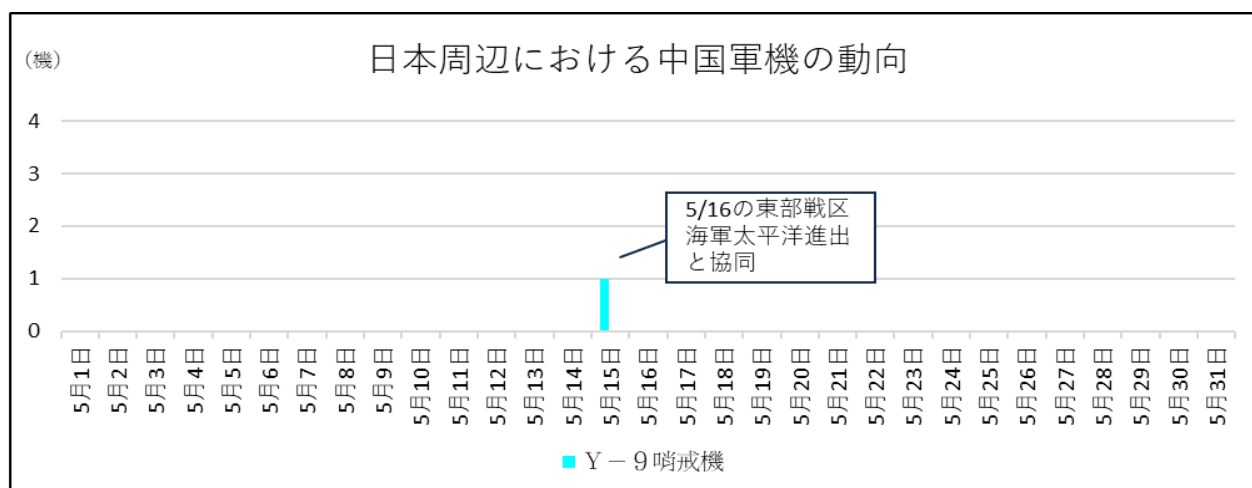
カタパルトを有し、固定翼の早期警戒機を搭載できる空母福建は、21日～27日、8回目の試験航海を実施しており、本年の8月1日の建軍節、9月3日の軍事パレード、または10月1日の国慶節に合わせて就役する可能性がある。福建が就役すれば、遼寧が太平洋に進出してデモンストレーションする必要もなくなるため、台湾侵攻時は尖閣周辺に展開し、日本の戦力分散と台湾方面への日米の展開を監視・阻止をする等、より効果的かつ現実的な任務に主眼を置いた訓練に移行していく可能性がある。

また今回、注目されるのが遼寧と東部戦区海軍艦艇の連携である。北部戦区を母港とする空母遼寧は通常北部戦区の艦艇と編隊を組む。前頁の左図27日の沖宮間を通過から太平洋に進出した③～⑤の位置の空母に随伴する艦艇は全て北部戦区海軍所属である。

しかし前頁右表赤字が示すように25～26日の①、②の位置では東部戦区海軍の艦艇が2日間とも2隻展開している。27日以降は空母に同行していないため、確認されたジャンカイⅡ級フリゲート2隻とルーヤンⅢ級駆逐艦2隻は通常は2隻で1コ編隊を組み、尖閣近海に常時展開している艦艇であろう。2018年7月海幹校戦略研究「東シナ海における中国の軍事活動」の論文では「尖閣諸島の国有化以降、尖閣北方海域に常時展開するようになった中国海軍艦艇に対応する海自艦艇」との記述があり、中国は2012年9月以降、尖閣に対する警戒監視のため常時艦艇を展開させているものと見られる。今回は訓練の為に増援し4隻態勢になったのか、通常も4隻展開しているのかは不明である。

5月はこの対尖閣警戒監視艦艇と空母編隊が協同訓練を行ったと見られ、グレーゾーンから台湾有事の際には、日米軍の監視・台湾への展開阻止・戦力分散等の目的の為に、尖閣周辺で空母を運用する訓練を北部・東部戦区海軍が連携して開始した可能性がある。

○ 防衛省統合幕僚監部発表による日本周辺における中国軍機の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ1機の活動が確認された。

16日にユーシェン級揚陸艦を含む東部戦区海軍の揚陸艦艇群が沖宮間を通過し太平洋に進出しているため、これと協同した訓練を実施した可能性がある。

(3) 対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 尖閣上空の領空侵犯に関する国防部記者対応¹¹

日本の発言は善悪を混同しており無責任。日本民間機が釣魚島領空を侵犯し、中国の領土主権を著しく侵害しており、中国海警が必要な取締りを行い警告駆逐したのは完全に正当かつ合法である。日本に対し、自国民の活動を厳格に取締り、釣魚島の海空域の状況を複雑にする挑発行動を停止し、不安定不安全な要素の生起を回避し、中日関係発展の大局に影響を与えないよう要求する。

○ 「航宙母艦」「航宙機」計画¹² 解放軍報 20250515

日本が「航宙母艦」「航宙機」を開発する計画は宇宙デブリ等を口実にしているが、背後には対衛星兵器開発等の軍事的意図があることを見逃してはならない。

○ 2025年版防衛白書の素案に関して¹³ 5月国防部定例記者会見 20250529

日本が作成した防衛白書素案は、従来の主張の焼き直しであり、中国の軍事力の発展に不当に口出しし、中国の合法的軍事活動や対外軍事協力を批判するもので、われわれは断固反対する。今年は中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利 80 周年にあたる。この特別な歴史的節目に、日本は根拠なく他国を中傷、非難するのではなく、自らを深く省みるべきだ。

【コメント】

今次領空侵犯については、海警局・外交部共に同様の発表をしており、日本が中国の領空侵犯のきっかけを与えたとの対日認知戦を大々的に展開した。

5 南シナ海での活動：対比

○ スカボロー礁

- ◇ 5月8日、比軍は比海軍のパトロール艇 BRP Emilio Jacinto (PS35) が比沿岸警備隊・比漁業水産局を支援しての定期パトロール中にスカボロー礁から約 11.8 カリの位置で中国海軍のジャンカイ II 級フリゲート艦 2 隻 554・573 と中国海警 5403 から攻撃的かつ不安全な接近を受けたと発表¹⁴。
- ◇ 5月8日、南部戦区報道官は「5日、比 35 号護衛艇（筆者注：砲搭載パトロール艇、BRP Emilio Jacinto、舷号 PS35）が、スカボロー礁領海に侵入を企図。南部戦区海軍は海空兵力により、法に基づき追跡監視し警告駆逐し、領海への侵入を阻止した。」と発表¹⁵。

南部戦区が公表した比艦艇（青線）と中国艦艇（赤線）の航跡



比が撮影した接近する中国艦艇



（資料源：南部戦区微信20250508に青字部分を筆者が追記）（出典：X:Armed Forces of the Philippines20250508）

- ◇ 5月31日、南部戦区は「南部戦区は31日にスカボロー礁の領海領空及び周辺区域の戦備警戒パトロールを実施」と発表¹⁶。
- ◇ 5月31日、海警局は「海警は31日にスカボロー礁領海及び周辺海域で法執行パトロールを実施」と発表¹⁷

○ セカンドトーマス礁¹⁸

- 5月21日、海警局報道官が「5月16日、中国の許可を経て、比の民間船1隻がセカンドトーマス礁の不法座礁艦艇に生活物資を補給、中国海警は比船舶に確認し全行程を監視・管理した」と発表。

○ サンディー礁

5月22日、比漁業水産資源局は、「21日に南シナ海サンディー礁周辺で海洋調査を行っていた同局の船舶 MMOV3002、MMOV3003 に対し、中国海警が放水し、船体の側面に衝突。同局の調査船に対し海警が放水銃を使用したのは初めて」と発表した¹⁹。

これに対し22日、中国海警報道官は、「21日、比公船3002号と3003号が中国政府の許可を得ずに中国スビ礁とサンディー礁付近の海域に不法に侵入し、サンディー礁に不法に上陸した。中国海警局の法執行官は法に基づいて比船舶に対する取締り措置を講じ、サンディー礁に上陸し、調査・対処を行った。」「0913～0914、比3002号は中国の度重なる厳しい警告を無視し、通常の法執行活動を行っていた海警21559に危険な接近を行い、衝突させた。責任はすべて比側にある。」と発表²⁰。

サンディー礁での中国海警のフィリピンへの対応を宣伝する中国報道 比漁業水産局の船舶に放水する海警船 上陸する比人員と取締りの海警ボート



(出典：CCTV新聞20250523)

【コメント】

5月も南シナ海での中比の対立は継続しているが、比も以下のように日米等との連携を強化している。

20日：比と米海・空軍が南シナ海で共同海上演習を実施し、これに両国の沿岸警備艇が初参加

26日～6月6日：比国における米比海兵隊等との実動訓練（カマンダグ25）が実施され、これに陸上自衛隊水陸機動団、韓国海兵隊が初参加

31日：シャングリラダイアログ開催中のシンガポールで、日米豪比防衛相会談が開催。南シナ海における比やその他の国々に対する中国による危険な行為に関して深刻な懸念を改めて表明するとともに、比への防衛投資や情報共有について確認

これら一連の動きに対し、中国も戦備警戒パトロールや法執行パトロールを実施し、牽制したと見られる。

6 軍事交流

(1) 共同訓練

○ 中・シンガポール海上共同演習「中星合作-2025」²¹

5月9～16日、中・シンガポール海上共同演習「中星合作-2025」がシンガポール・チャンギ海軍基地等で実施。同演習は2015年から開始され、今回4回目。

中国はミサイル駆逐艦と掃海艦の計2隻、シンガポールは護衛艦と掃海艇計2隻が参加。海上打撃・補給・搜索救難・臨検拿捕等の科目を演練。

○ 中カンボジア共同演習「金龍-2025」²²

5月14～28日、カンボジアで、中カンボジア共同演習「金龍-2025」を実施した。金龍シリーズとしては7回目。今回は初めて中カンボジアリアム港共同保障訓練センターで海上訓練の支援を実施、空軍ヘリも初めて参加し、双方の陸海空軍と兵站部隊と一緒に訓練を行った。

リアム港に接岸する長白山艦



(出典：国防部網20250513)

カンボジア王国陸軍憲兵訓練センター
(コンポンチュナン州)での訓練開会式



(出典：中国軍網20250517)

【コメント】

中カンボジア共同演習は、4月に開設された中カンボジアリアム港共同保障訓練センターを活用して行われた。今回、訓練のために寄港した中国艦艇は、センターの所在する北側地区にある新たに建設された栈橋に接岸した。

4月にリアム基地に寄港した海上自衛隊及びベトナム海軍の艦艇は南側地区に接岸しており、北側地区は中国が排他的に使用している可能性があり、同センターが実質的に中国の海外基地として機能していると言えよう。

(2) 軍事交流

○ 中国人民解放軍三軍儀仗隊のソ連大祖国戦争勝利 80 周年閲兵式への参加²³

5 月 9 日、中国人民解放軍三軍儀仗隊がソ連大祖国戦争勝利 80 周年閲兵式へ参加し、赤の広場においてパレードを行った。

○ 中国人民解放軍儀仗大隊分隊のベラルーシ主催ソ連大祖国戦争勝利 80 周年閲兵式への参加²⁴

5 月 9 日、中国人民解放軍儀仗大隊の儀仗分隊 54 名がベラルーシ主催のソ連大祖国戦争勝利 80 周年閲兵式へ参加し、ベラルーシの首都ミンスクにおいてパレードを行った。ベラルーシでのパレード参加は 4 回目。

○ 董軍国防相の国連平和維持活動閣僚級会議参加

5 月 11～17 日、董軍国防相は仏独を訪問し、ベルリンでは国連平和維持活動閣僚級会議に参加し、中国の人類運命共同体や平和維持活動への貢献等について演説を実施した²⁵。

また、欧州訪問中に国連事務総長・仏・独・伊・ネパール等の国防首脳陣と会談を行った。主な会談については以下の通り

◇ 中仏国防相会談²⁶

12 日、訪仏中の董国防相は、ルコルニュ仏国防相と会談した。双方は、両国及び両軍関係、国際・地域情勢、共通の関心事項について踏み込んだ意見交換を行い、両軍間の実務交流と協力を強化することで合意した。

◇ 董軍国防相のグテレス国連事務局長との会見²⁷

13 日、董軍国防相はベルリンで国連平和維持活動閣僚級会議に参加中に、グテレス国連事務局長と会見。董国防相は「中国は新たな平和維持活動への受諾を提出予定」と述べた。

◇ 中独国防相会談²⁸

15 日、訪独中の董軍国防相は、ピストリウス国防相と会談した。双方は、両国及び両軍関係、国際・地域情勢、共通の関心事項について踏み込んだ意見交換を行い、両軍間の実務交流と協力を強化することで合意した。

○ エチオピアへの医療支援²⁹

5 月 17 日、第 11 次対エチオピア軍医専門家チームがアディスアベバに向け出発した。チームは陸軍軍医大学第一付属医院を主に選抜された 14 名で、2015 年の派遣以来、最大規模。派遣期間は 1 年。

○ 中タイ参謀長会談

5 月 22 日、劉振立・統合参謀長は、訪中したソムウィット・タイ軍最高司令官と会談した。双方は、両国及び両軍の関係、国際・地域情勢など共通の関心事項について意見を交換し、戦略的意思疎通の強化、共同演習の深化等について合意した³⁰。

また 23 日、ソムウィット司令官は董軍国防相とも会見した³¹。

○ シャングリラダイアログ

国防部報道官は「5月29日～6月2日、中国人民解放軍国防大学代表団を第22回シャングリラダイアログに派遣し、併せてシンガポール軍の関連機関等を訪問する」と発表³²。

【コメント】

ソ連大祖国戦争勝利80周年閱兵式へ参加し、ロシアとの連携をアピール、また国防相が国連平和維持活動閣僚級会議で新たなPKO派遣を表明する等、国連重視の姿勢を喧伝した。

一方、シャングリラダイアログにはこれまでコロナ禍による中止を挟んで4回連続で国防相を派遣してきたが、今回は中国国防大学副学校長兼教育長の胡鋼鋒海軍少将を長とする代表団派遣に止まり、董軍国防相は参加を見送った。

これについては、①関税や台湾問題で中国としての対米方針が揺れているため米中国防相会談を避けた、②中国軍高官人事動向の影響、のいずれかの可能性がある。

高官人事については、2024年11月に重大な規律違反で調査を受けていた苗華中央軍委政治工作部主任が、本年4月に全人代代表を解任され、5月30日に国防部HPの中央軍事委員会メンバーのページから名前が削除されたのが確認された。調査が終了し、新たな動きがある可能性があり、その影響もあり参加を見送った可能性も考えられる。

【参考文献】

- 1 国防部網 20250515
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16386202.html>
- 2 中国軍網 20250528
http://www.81.cn/yw_208727/16388539.html
- 3 中国軍網 20250529
<http://www.81.cn/jwtt/16388774.html>
- 4 CNA20250602
<https://www.cna.com.tw/news/aip/202506020076.aspx>
- 5 海洋委员会海巡署 20250516、20250527、20250528
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem>
- 6 中国海警局 20250528
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202505/t20250528_2744.html
- 7 海洋委员会海巡署 20250505
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=164970&ctNode=650&mp=999>
- 8 海洋委员会海巡署 20250528
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=165116&ctNode=650&mp=999>
- 9 中国海警局 20250508
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202505/t20250508_2721.html
- 10 国防部網 20250529
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/rt/16388804.html>
- 11 国防部網 20250504
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16384130.html>
- 12 解放軍報 20250515
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-05-15&paperNumber=11&articleid=955054
- 13 国防部網 20250529
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16388794.html>
- 14 X:Armed Forces of the Philippines20250508
<https://x.com/TeamAFP/status/1920263627543884285>
- 15 南部戰区微信 20250508
<https://mp.weixin.qq.com/s/FrwD-MbiQeAtA1pn2lTp7w>
- 16 中国軍網 20250531
http://www.81.cn/yw_208727/16389162.html
- 17 中国海警局 20250531
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202505/t20250531_2748.html
- 18 微博·中国海警 20250521
<https://weibo.com/u/6586732953?lpage=profileRecom>

19 Philippine news agency 20250522
<https://www.pna.gov.ph/articles/1250646>

20 中国海警局 20250522
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202505/t20250522_2740.html

21 中国軍網 20250511
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-05-11&paperNumber=04&articleid=954750

22 国防部網 20250529
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16388794.html>

23 中国軍網 20250510
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-05-10&paperNumber=02&articleid=954726

24 国防部網 20250510
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16385268.html>

25 国防部網 20250515
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/jswj/16386323.html>

26 国防部網 20250513
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16385674.html>

27 国防部網 20250514
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16385901.html>

28 国防部網 20250515
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/jswj/cf/16386326.html>

29 中国軍網 20250517
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2025-05-17&paperNumber=04&articleid=955228

30 国防部網 20250522
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16387526.html>

31 国防部網 20250523
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/jswj/16387724.html>

32 国防部網 20250529
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16388794.html>

中国軍事動向月報 2025年5月

2025年6月10日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。